一般会計

総額は144億7,975万円

昭和六十年度が始まりました。四月から向こう一年間の市政の基本となる予算のあらましをご紹介します。

予算総額は、百四十四億七千九百七十五万九千円で、(1)市民のくらしを守り健康と福祉の向上　(2)住みよい生活環境の整備　(3)心の豊かさをはぐくむ教育文化の充実　の三項目を柱としてあすの向日市をつくるための予算となっています。

一般会計　九十億七千四百万円

二十一世紀にむけて明るい展望が開けるふるさとづくりを

歳出

歳出予算とは、一年間の収入を見込んだうえで、何のためにお金をどう使っていくかをきめるものです。

六十年度の一般会計予算額は、九十億七千四百万円で、目的別にみてみますと民生費＝十九億六千三十五万円で、全体の二十一・六％、教育費＝十八億千八百八十一万円で二十・〇％、土木費＝十四億六千九百五十八万円で十六・二％、公債費＝十二億二千八百四万円で十三・五％、総務費九億八千四百七十二万円で十・九％、衛生費＝八億六千三百四十五万円で九・五％などとなっています。

主な新規事業は、■救急フェアー開催事業　■病院群輪番制病院運営事業　■ねたきり老人対策　■蜂駆除用防護服一般貸出用設置　■市民のふれあい広場建設事業　■テレホンサービスの実施　■長岡京古瓦聚成刊行事業　■市民体育館建設事業　■国際青年年記念事業　■寺戸コミュニティセンター運営管理　■図書館運営管理　■資料館運営管理

歳入

歳入予算とは、市が行ういろいろな事業をまかなう財源をいいます。

歳入の主なものは、市税・国・府支出金および市債です。市税は、四十九億千十一万円で全体の五十四・一％、地方交付税は、十四億で十五・四％、国庫支出金は八億四千九万円で九・三％などです。

六十年度は、引き続く厳しい社会情勢の中で、市の台所事情も例年以上に厳しいものとなっています。

このため、市税などの自主財源の確保を図るとともに、国・府に対し、地方税財政制度の抜本的な改善など、財源確保について引きつづき強く要望していきます。

みよい生活環境の整備

良事業およびカーブミラーなどの設
などの交通安全対策事業　2億5,043万円
街路事業の推進　2億6,306万円
路、小規模河川、排水路改修整備　1億1,710万円
、児童公園の改良整備　508万円
あいの広場建設事業　1億円
道幹線、枝線の整備　4億5,059万円
のねたきり老人等に自動火災警報器　70万円

費として、測定器具の整備　166万円
防護服一般貸出用の設置　12万円
別収集、し尿収集体制の充実など　5億5,079万円
ズを市政に反映させるための広聴業　158万円
市発行、盲人用声の広報テープ作成
の充実　1,419万円
増設、改修、維持管理　962万円
を一掃するため交通安全教室の開催
もに放置自転車対策の一層強化　223万円

体制確立のための警報設備に補助　15万円
共済加入者に補助　46万円
京都線連続立体交差化の事業に向け　244万円

心の豊かさをはぐくむ教育文化の充実

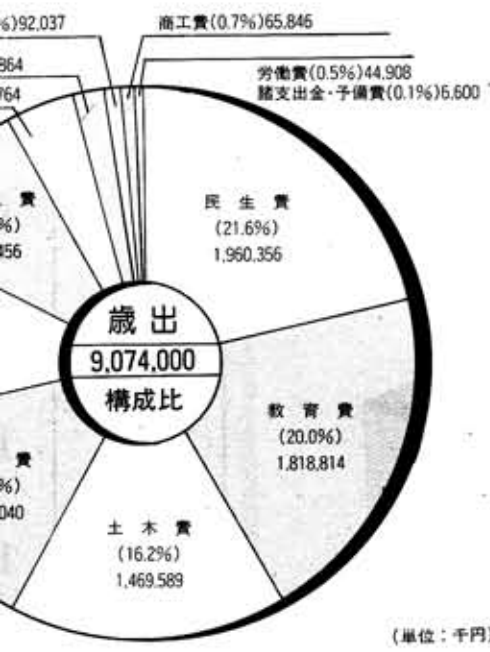
▷寺戸コミュニティセンター運営管理費　750万円
▷私立幼稚園児に教材費を、施設に設備費などを補助　5,450万円
▷小中学校の学校運営上必要な施設維持管理経費　1億8,353万円
▷小中学校施設の整備　5,630万円

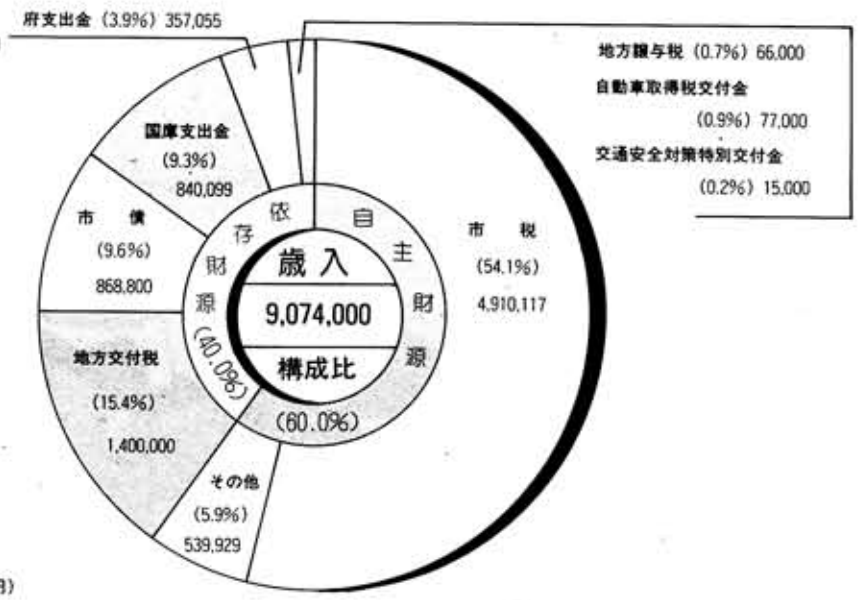
▷修学旅行、遠足などを通じて、経験的な学習指導の実施など　3,105万円
▷子供会を育成するためのリーダー養成や地域活動・集団育成など　173万円
▷家庭教育学級、高齢者教室などを開催　399万円

▷地区公民館講座などの充実　1,885万円
▷資料館運営管理費　1,163万円
▷市民体育館建設事業費　7億586万円
▷図書館管理運営費　3,344万円
▷向日市史、下巻に引き続き史料編の編集　1,284万円
▷国際青年年記念事業　10万円
▷長岡京古瓦聚成刊行事業　465万円
▷西ノ岡中学校校舎増築事業にともなう受託事務費　52万円
▷市民に新鮮な情報の提供を行うためにテレフォンサービスを実施　82万円
▷5万市民のふれあいと新しいふるさとづくりに、向日市まつりを開催　200万円

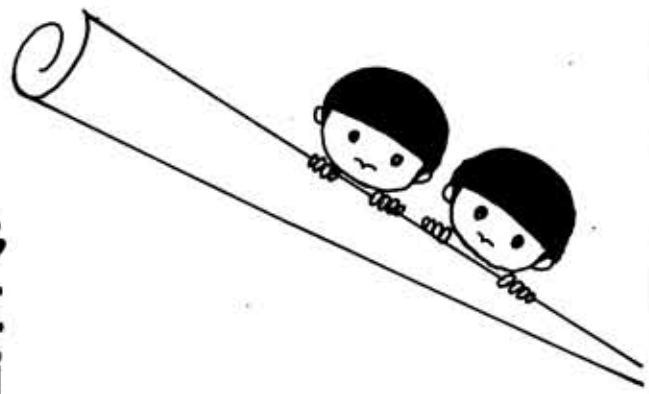
▷物集女車塚古墳の復元整備を目的に、復元案設計の委託　137万円
▷スポーツに参加するきっかけ作りと、各種の教室を開催　86万円

予算額と構成比





（単位：千円）



図で見る予算